

# 逆境に向かう

「平和な日を送るよりは、悲痛な日を送ることだ。私は死の眠りの以外の休息を願わない。私の一生に満足し得なかったあらゆる欲望、あらゆる力が私の死後まで生き残って私を苦しめはしないかと思うと慄然とする。私の心中で待ち望んでいたものをことごとくこの世で表現した上で、満足してー

あるいは絶望して切つて死にたいものだ。」アンドレ・ジツド著「地の糧」より  
石原慎太郎「真の指導者とは」からの引用です。  
心に残ったのでメモしてあつた。

三井物産の会長・榎田松塋「うつだ・しようえい」氏も、「死ぬ瞬間に、手応えと満足を感じる生き方をしなければならぬ」といつている。

どんな組織に携わる人でも本質はみな同じでしょう。倒れる瞬間まで「自分」と闘う。少しでも痕跡を残すことが企業の永遠に繋がるのでしよう。

真に「親」や「先代」を敬う気持ちが出るまで闘えば、勝利したことになるでしょう。

成功者はすべて苦難の道や、鍛えられた逆境に感謝しています。

田舎の保守的な地では、少数意見を書き、言うこと

はかなりの勇気がいるものです。卑怯で卑しくない限り何も恥じることはありません。

人類が、自然条件の厳しい北半球の風土の中で発展を遂げて来たのは、困難に立ち向かい覚悟し準備を重ね永年にわたって、快適さを築いて来たものです。

渋沢栄一氏や松下幸之助氏や孫正義氏に絶対になれ

いつの時代でも、人は生きる限り希望が必要です。

どんな場合でも明るい希望があると、信じる「信念」が不可能を可能にすると言われます。

人は「意欲」で動く。ユーターです。前向きに考えていけるかどうかで将来が変わると思えます。

苦境を肯定する「だからよくない」信念で、結果が付いてくる。自然をよく見ると、見えていな

ません。誰も、同じ人間ですぎなれません。

なぜかは、それは時代が人を生み出すからです。

今の時代、吉田茂、田中角栄、小泉純一郎でしょうか。坂本龍馬か東条英機でしょうか。日本の主役は霞ヶ関官僚です。

「一勝九敗」が世の常と覚悟し余力を残し、チャレンジする行動が全て。簡単に儲かるものは存在しない。それは犯罪か偶然だ。

## 日本固有の多信仰

人々の救いは仏教は慈悲、キリスト教は愛、儒教は仁と言います。  
神道は日本固有の多信仰。大本営の天皇は神ではない。京都御所の回りを歩いたことがありません。御所は鎌倉中期から明治初頭まで天皇の居所であった。御所を覆う回りの塀ははすべて海外の宮殿などと異なり約5メートル、あまり高くない。建物を見ても支配による危機感は見えない。

ただ、何処か道端の植物も実を付けわずかな希望があります。

季節は一瞬で晩秋に変わった。我々の社会も同じ、カレンダー

## 愛と希望を持つ

は変わり夏は終わった。冬を目前に、いまは静かに備える季節。

季節に法則があるように、人

法則があります。それは「義」。今は大きな歴史の、人類文明の転換点でしょう。時の権力でなく、一人ひとりが己の信ずる「正義」に向かうとき、社会に生かされる意義がある。

あなたは何を愛し生きているのでしょうか。

おカネですか？



(有)西川経営オフィスサービス  
中村会計  
事務所便り  
2011年10月5日 (水) NO. 233  
地域から明るい未来を作ろう